

上垣内遺跡Ⅱ

—都市計画道路梅が丘高柳線の建設に伴う発掘調査—

大阪府教育委員会

序 文

上垣内遺跡は大阪府の北東部、寝屋川市に所在する古墳時代から中世に至る集落遺跡です。遺跡は東に生駒山系をのぞみ、周辺に神社や田園、ため池があるのどかな風景が今なお残されています。

近年、遺跡の北側を東西に貫く第二京阪道路が開通し、これに交差する道路として、都市計画道路梅が丘高柳線の整備工事が始まりました。工事に先立ち、本府教育委員会では平成25年度の試掘調査をかわきりに埋蔵文化財の発掘調査を実施し、古墳時代後期の竪穴住居や中世の溝や土坑などを検出しています。

また、第二京阪道路建設に先立つ発掘調査では小路遺跡から祭祀遺物、高宮遺跡から古墳時代集落と古代の大型掘立柱建物群、太秦遺跡から方墳群などが発見され、地域の古代の生活の一端が明らかとなり、貴重な成果をあげています。

平成27年度の調査は、平成26年度の発掘調査で確認された竪穴住居の南側の構造や、関連施設をより明確にできると期待していました。今回、竪穴住居の全容は明確にできませんでしたが、集落は丘陵の南北にさらに広がることがわかりました。

道路建設に伴う上垣内遺跡周辺の発掘調査は今後も継続して行われる予定です。今回の調査の実施にあたっては、地元の方々や大阪府都市整備部をはじめとする関係各位に、多大なご協力を賜りました。深く感謝いたしますとともに、今後とも文化財保護行政に一層のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

大阪府教育庁文化財保護課長

星住 哲二

例 言

1. 本書は、大阪府教育委員会が大阪府都市整備部の依頼を受けて実施した都市計画道路梅が丘高柳線建設工事に伴う、寝屋川市明和町二丁目所在、上垣内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査の調査番号は、15001である。
3. 現地調査は、文化財保護課調査事業グループ副主査西川寿勝・同専門員辻本武を担当者とし、平成27年4月1日から同年7月10日まで実施した。遺物整理作業は平成27年度、28年度に調査管理グループ主査三木弘（平成27年度）、同副主査藤田道子、同専門員阪田育功（平成28年度）及び西川（平成27年度）を担当者とし、実施した。
4. 検出遺構の写真撮影および、本書の執筆・編集は、西川寿勝が担当した。
5. 調査における基準点測量は、大阪測量株式会社に委託した。
6. 出土遺物の写真撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。
7. 発掘調査・遺物整理および、本書の作成に要した費用は、大阪府都市整備部が負担した。
8. 本調査で作成した記録資料・撮影写真・出土遺物は大阪府教育委員会で保管している。
9. 本書は、300部作成し、一部あたりの印刷単価は、528円である。

本文目次

序文・例言

本文目次・挿図目次・図版目次

第Ⅰ章 位置と環境	1
第1節 位置と環境	
第2節 調査経緯	
第3節 調査方法	
第4節 層序	
第Ⅱ章 調査成果	9
第1節 27-A区の調査	
第2節 27-B区の調査	
第3節 出土遺物	
第Ⅲ章 まとめ	21

図版・報告書抄録・奥付

挿図挿表目次

図1 周辺遺跡分布図	2	図9 掘立柱建物A-1	12
図2 調査区位置図	4	図10 柵列A-1平面図および断面図	12
図3 調査区地区割図	5	図11 27-B区南端の遺構	14
図4 調査区全体図	7～8	図12 打製石器	14
図5 竪穴住居A-1・A-3平面図	10	図13 27-A区出土古代・中世の土器	16
図6 竪穴住居A-3出土土器	10	図14 27-B区出土近現代の遺物	20
図7 竪穴住居A-2平面図	11	実測遺物対照表	22
図8 竪穴住居A-2出土土器	11		

図版目次

図版 現地説明会風景	図版9 27-A区下層遺構4
図版1 調査区周辺航空写真	図版10 27-A区下層遺構5
図版2 27-A区上層遺構全景	図版11 27-B区北半全景
図版3 27-A区下層遺構全景1	図版12 27-B区南半全景
図版4 27-A区下層遺構全景2	図版13 出土遺物1
図版5 27-A区下層遺構全景3	図版14 出土遺物2
図版6 27-A区下層遺構1	図版15 出土遺物3
図版7 27-A区下層遺構2	図版16 出土遺物4
図版8 27-A区下層遺構3	